

平成24年度 第2回刈谷市行政評価委員会 議事録

- 日 時 平成24年6月1日（金）午前10時00分～12時00分
- 場 所 刈谷市役所 801会議室
- 出席者 昇秀樹、吉本理沙、加藤時彦、近藤克麿、天野櫻子
※欠席：都築繁幸、浅井裕章
- 事務局 市長、副市長2名、企画財政部長、企画財政部企画政策課長 他

1 委員長あいさつ

委 員 長 2年目になりますが、今年度の行政評価についての議論をよろしくお
願いします。

2 議事

(1) 平成24年度外部評価対象事業選定方針

(事務局より、資料1、2、3の説明)

委 員 長 まずフォローアップをする事業を選んで、その後で今年度の新規の事
業を選ぶということですね。

フォローアップとして10事業を対象としていますが、事務局で適当
と思われる案はあるか。

事 務 局 事務局としては、委員の皆様には10事業すべての中からお検討いただ
くことはなかなか難しいと考えていて、10事業の内4事業を案として
提案させていただきます。それに伴い、その4事業とそれに対する昨年
度の評価、対応の方針の簡単な説明をさせていただきますが、よろしい
でしょうか。

委 員 長 よろしくお願ひします。

(事務局より、フォローアップ評価対象4事業について説明)

委 員 長 10事業の内4事業をたたき台として示して頂いたが、この4つはど
ういう理由で選ばれたのか。

事 務 局 去年の協議の中でご意見を頂いた内容と私どもの中でそれをどう捉え
て改善していくかということについて、PDCAとして一番わかりやす
く取り組みを説明でき、効果がしっかりしているものという理由で、1
0の中からこの4つをお願いできればと提示した。

委員 長 考え方として改善に努力した事業と、そうでない事業がある。フォローアップはどちらを対象にするのか。対象にしないのはどういう理由かということもある。

事務局 言われたことをうまく消化、改善できず、いい方法を見出せない部分もある。せつかく時間を頂いて説明するのなら、他の人にもこういった形で取り上げて改善が進んだことを理解していただく為にも、進んだ方でできればと思い提案した。

委員 長 考え方として色々あると思うが、他に意見はあるか。

委員 基本的な、改善効果として上がった施策については全部フォローアップしてほしいというのが私達委員の本心である。去年一年いろいろとやってきた中で、ここで取り上げない残りの8事業がどうなっているのか、うまくいっていようがなかろうがどこまで改善できているのかを知りたいし、いいアイデアがあれば皆さんで出せるのではと思うので基本的には全部進めてもらいたい。今提示された4事業は市職員にとって発表しやすいテーマを挙げているのではないか。直接市民に響いてくるのは、例えば保育士研修、学校づくり、バスのこと等、改善案が出た事業がいろいろある。こういったテーマは改善がやりにくいと思うが、一番市民に直結するようなテーマを挙げたほうが、発表のための改善ではないのでいいと思う。

事務局 今年度の事業の最終的な改善については、今年度のどこかでその結果を説明したいと思う。

委員 ぜひとも発表の為の改善にならないようお願いしたい。

委員 長 委員会のどこかでは20事業全部の結果を報告するということか。

事務局 昨年度の終わりに市の対応として示したが、それがどうなったかということについてはまた一度ご報告したい。

委員 長 公開の場所でやるかどうかは別にして、この委員会では全部どうなったかを報告するということか。

事務局 この場でやってしまうと今年の新しい事をやる時間がなくなってしまうので、当然それを積み重ねていかないといけないと思っている。

委員 時間もないので、全部やるのが一番だが絞った方がいいと思う

委員 長 委員会では全部について簡単な報告をしてもらって、公開の場でやる

のは2事業か3事業ということで。改善・効率の進んでいるものと、そうでないものを1事業ずつ聞かせてもらうのはどうか。

事務局 委員の皆様がおっしゃった意見の方向性だけでない部分があるし、それを含めてこの場で論議をすると外部評価にそぐわない話になってしまうと思われる。例えば、保育士研修事業だと、時間配分としてこんなに時間をかけるのかという意見があったが、時間配分を見直すとそもそも採点方法が間違っていたという話だけになってしまい、それでは言われた内容とそぐわないというものもある。市民協働推進事業では厳しい意見もあったが、それでも市としては市民協働をおこしていかななくてはいけない。そういった部分で込み入った話になってしまうと思い、その辺を危惧している。決して簡単で説明しやすいからこれを選んだという事ではなくて、厳しい意見を頂いた中でどう対応したかについてお話をさせて頂けたらと思いこれらの事業を選んだ。

委員長 委員もすべての分野の専門家ではないので、公開の委員会の場の限られた時間の中で議論するわけで、委員会の側に基礎知識が十分でなくて間違った指摘をする事もあり得る。そうであれば、その場で指摘してもらえば良い。委員会が100点満点のことを言っているわけではないので、妥当な場合もあるし間違っている場合もある。勘違いを含めて説明してもらい、そういうことだったのかと納得できればよい。ものによっては、平行線で妥結できない場合もあってもやむを得ない。委員会としてはこう考えるが、行政はこう考えるということがあっても良い。過度な予定調和はあまり気にしないで良い。それぞれの分野について外から見たらこう見えるが、我々が知らない利害関係があってそうせざるを得ない場合もあるかもしれない。

改善・効率化以外は廃止と他に何があったか。

事務局 資料3の裏面にすべての一覧表がある。

委員 経済界は縮小傾向にあり、特に刈谷は製造業が多いということでメーカーはますます厳しくなっている。そういった上で税収等を考えるとき、たくさんの施策をやればよいということではなくて、何に重きを置くかという考えで進めていかないと回らなくなってくる感覚はある。企業は本当に苦しくて、少し上を向き始めたというがまだまだ裾野には影響していない。たくさんある施策の中で、去年の評価結果には縮小、休止は

ほとんどない。やめてもいい事業、思い切ってやめた方がためになる事業とか腹をくくらないといけないこともある。すべて手厚いサービスが良いということではない。優先順位をしっかりと考えて、やめるもの、縮小するものを増やしていかないと厳しい状況になると思う。

事務局 市長からも常々言われていて、予算査定では厳しくしているつもりだがまだまだ甘い思う。

市長 終期設定をして時代に合ったタイムリーな施策をスピーディーに打っていきたいということでやっている。例えば、今やっている施策の中では、子育てが問題になっているが、全国平均よりは出生率が高いものの、2.1を下回っていて再生産ができていない。子育てを重点にしようという事でやった施策の中で、幼児2人乗自転車に対し3年のセットで補助金を出し、車の運転ができないお母さんでも保育園に行く時などに、前と後ろに子供を乗せる事が出来るようになり自転車の利用者が増えた。そろそろ縮小しないといけないものとしては、エコカーに対する補助金がある。最初10万円ではじめたものを時代の移り変わりによって額を変動させ、今はハイブリッドが普及してきたので5万円に縮小し、電気自動車やPHVを手厚くして15万円にするなど適宜対応している。そういう考え方で施策的にもフォローしているつもりだ。

委員長 長 スクラップアンドビルドですね。

市長 まったく無しにすることが難しい。県はできるが市町村はすぐにやめるわけにはいかない。

委員長 長 民間経済の調子がよくないとそれを補う政府の役割が増える。失業対策、若者の雇用対策、子育て等。これまでは景気の循環があって、民間経済が一時悪い時は借金をして良くなった時に返せばよかったが、今の経済は悪いのがずっと続きそうなので、この時に借金が大きくなるとここで発行した借金が返せなくなる。新しい次元で、今年はより厳しい視点からやっていく。

市長 なかなか厳しいですね。

委員長 長 5年後、10年後は車もそうなる。普通の製造業は日本では無理ではないか。新興国がメインになってしまう。高級なものは良いが、大衆品は難しい。

市長 昨年ご意見を頂いた中でも新産業支援というお話が出ていたと聞いて

いる。細かいところで支援しているが、6月議会では新たに市内の中小企業への設備投資の補助を出している。刈谷には工業用地が余りなく、工業用地の確保が難しい。今あるものを維持し、その中でリニューアルしながら高度化していく。それに対する予算も6月議会に上程している。

委員 縮小傾向の中で、刈谷市のサービスをどうスクラップアンドビルドしていくのか、例えば楽農事業や創意ある学校づくり事業で後継者を育成するには若い人が関わらないといけないと思うが、このあたりでコラボという形というか、課を超えた協力ができないか。そうすれば職員が減って、浮いた人員を他に回せるのではないか。全部重要だとして出てきているのだから、その辺をうまくくっつけて整理していくこと、課を超えることは難しいのか。

事務局 決して簡単ではないが、出来ない事はないと思う。例えば、いきがい楽農センターがどういう改善をしたかというところ、カルチャーセンターとしてだけでは高い人件費に見合っていないところのご指摘を頂き、今年の後継者育成にシフトし事業自体を組み替えつつある。いきなり切り替わるわけにはいかないが、より後継者育成にシフトした改善を図っている。そういう方面での動きはあるが、今のご指摘の内容ではないところでの改善をしている。

市長 行政の一番のウィークポイントは縦割りで横糸が無いところ。農政課の生きがい、後継者づくりだったら、学校づくりの中で小中学生とは言わないが、高校、大学、大学を卒業して就職できない人達にやってもらえれば本当に若返るのだが、そこら辺の連携が仕事上でできていない、突っ込んでいないのでそういう発想が出てこない。でも、これからはそういうことが一番大事になってくる。行政評価委員を1年やっていただき、いろいろな仕事のことを聞かれて、こういうものだなということは理解されたと思う。法律が担当課によって違うのでやむを得ない面もあるが、そこにどう横糸を織り込んでいくのかということが行政のこれからのテーマになってくると思う。

委員長 来年施策評価をやるので、施策評価になると今の事業評価よりもレベルの高い話ができ、必ずしも単独の課、部でないものも入ってくるから、その中で連携の話もできればいいと思う。

市長 そういうところを皆さんが目配りをして連携を取ることが、これから

の幹部の仕事だと我々も会議の中で常々言っている。

委員長 やるとしたらやはり市町村しかない。市民の立場から市民の目線でやっていくのが市町村の役割だ。

市長 そういう仕事をやっていって、例えば何か疑問が出来た時、県なり国なりに持ち上げても、それがなぜ必要なのかを絶対国や県は理解できない。これはまさに市町村しかやれない価値のある仕事だ。

委員長 今の10事業のうち事務局は4事業を候補にしているが、1人2事業選んで手を挙げていただいて、数の多い事業を選んではどうか。

(委員意義なし、10事業について挙手により選択)

酪農センター3人、創意ある学校づくり2人、公共施設連絡バス2人。数の多いこの3つを公開の場でフォローアップしたいと思うが、よろしいか。

(委員意義なし)

では、フォローアップはこの3事業で実施します。

事務局 それでは、新規事業の選定についてですが、ただいま決定したフォローアップ事業を考慮した選定を行いたいと思います。資料2をご覧ください。まず、産業振興・農業施策についてです。ここでいう施策と先程フォローアップの対象になった酪農センター運営事業が同じ施策になるので、こちらの新規施策は対象から外したいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員意義なし)

委員長 よろしいですね。では、あとの2事業は？

事務局 創意ある学校づくり事業は、教育文化分野の「学校教育」という施策になる。生涯学習課が「生涯学習」と「青少年育成」と2施策に該当しているため、生涯学習課として該当する事業を事業が確定している「青少年育成」の事業を選定し、「生涯学習」の施策を対象から外し、ここに教育分野の学校教育という分野で創意ある学校づくり事業を当てはめてはどうか。

公共施設連絡バスは、都市環境分野の「道路交通」施策になり、重複するので対象外としたいと思います。。

新規のものは資料2の中で17施策を選択するという形になる。都市環境分野の道路交通、産業振興分野の農業、教育分野の生涯学習は削除

する。その中で委員の方に投票いただいた結果同数であった教育分野の歴史文化財と福祉安全分野の障害児・者福祉について決めていただきたい。

委員長 重複しない別の事業を選定された委員の方にどちらの事業を評価対象とするかを決めていただきたい。

事務局 (事業選定時に、歴史文化財の施策の「国指定文化財保護増殖事業」を選定した委員に「文化財保存整備事業」か「市史資料整理活用事業」のどちらを評価対象とするか選定していただく)

(事務局より文化財保存整備事業、市史資料整理活用事業についての説明)

委員 文化保護にしたのだが、かきつばたは刈谷にとって誇りであり重要なもの。それがはずれるならどちらでもよい。

事務局 文化財保存整備事業にもかきつばたは含まれるのではないか。

委員 それでは文化財保存整備事業にしたい。

事務局 25番の文化財保存整備事業に決定する。

(事業選定時に、障害児・者福祉の施策の「自動車改造費支給事業」を選定した委員に「手当て等給付事業」か「障害者就労相談支援事業」のどちらを評価対象とするか選定していただく)

(事務局より障害児・者福祉の手当て等給付事業、障害者就労相談支援事業についての説明)

委員 手当ての方にしたい。

事務局 39番の手当て等給付事業に決定させていただく。

委員長 刈谷というのは、大正時代に当時の町長が企業を誘致しこの町になった。今は第2の転換期であるから、温故知新ではないが大正時代にどういうふうに企業誘致をして、農業から工業へ、工業から知識産業へかわっていったのかを考える時。刈谷がこれからどういうふうに変わっていくべきかを考えていく上で、大正時代は刈谷にとって大事な時代であり、それを今やるとしたらどういうことをやるべきかを置き換えて考えていく必要がある。

市長 最初刈谷は糸からスタートした。産業振興センターが繭の形をしている。機織の機械を発明し、その儲けたお金で車を開発したという歴史がある。今まさに車からの過渡期という段階にきている。それをどういう

新産業に、あるいは知識集約をするのか、どういう形に持っていけるのかが難しいところ。これ以上新産業はなかなか見つかるものでもない。

委員 長 知識産業に従事する人や子ども達が学べる学校だとかの生活環境が一番のポイント。最終的には人であり、用地や工場があればよいということではない。人を引きつけるような環境をつくることが大事。それが21世紀型の産業につながる。

市 長 刈谷という土地には、過去の経験から学んで何かをつくり出すのではなく、豊田佐吉さんのように自分の想像力で展開していくという理科教育が定着している。発明クラブや学校教育の中の理科教育など全国的にも進んだ地域であるので、そういう子供達が成長したときに新たな芽生えが期待できるのではないか。先だってのはやぶさもそういう意味で、インパクトを得てもらえると良いと思いやった。

委員 長 議題（1）は以上で終わる。

（2）施策評価制度について

（事務局より、資料4の説明）

委員 長 意識調査は企画政策課でやるのか。

事務局 はい。

委員 表の流れ図2については、どこをやるのか。

事務局 まずシート作成を用いて各担当部署で自己評価といった形で内部評価を実施した後、市長など幹部の行政経営会議にも評価の内容をはかっていく。それをふまえた後、外部評価を実施していく。

委員 長 評価シートはまだ決まっていないのか。

事務局 現在作成中である。

委員 あまりイメージがわからないのだが、施策評価というのは基本的にこういう目標を掲げてやっているが効果が上がっているのかとか、その目標のためにいろいろな事業をやっているがそれが適当なのかとかそんなイメージでいいか。

事務局 はい。

委員 長 総合計画の48ページ、市街地住環境を例にとってみる。市街地住環境くらいのレベルになると、去年や今年やる事業よりかなり広範であるから、施策評価は課や部をまたいで全体で連携することになる。

- 委員 47ページの都市環境分野に8個の施策がある。この施策の中でどれを重点にやったらいいとか、これは統合したほうがいいとかいうような評価をするという事か。
- 事務局 一つ一つの施策が、思っている目標に対してうまく進んでいっているかどうかを評価する。
- 委員長 施策評価は他の自治体でもうまくいっていないところが多い。抽象度が高いのでわかりにくい。
- 事務局 もう少し研究して、わかりやすいものにしていきたい。
- 委員長 関係課が多いところは主管課に説明してもらうのか。
事務事業だと廃止、改善などがあるが、施策だと最終の出口が違う。ほとんどが改善になる。廃止ということは施策レベルではほとんどない。
- 事務局 施策レベルでこれはいらぬということはない。
- 委員長 事務事業とは出口が違う。
市長も言ってみえたが、実際縦割りでやっているからあんまり施策目標とか考えずに、横につなぐ意識を持ってもらう。
- 委員長 30施策もあるので、時間をどう配分するのか。
- 事務局 事業とは違うので、同じような形態でできるのか微妙。
- 委員 施策と事業の関係性も全部見ていかないといけないか。
- 事務局 どうやったらいいのか、まだイメージができていない。先進事例も研究しないといけない。理解しきれていないところもあるので、ご意見を頂きながら検討していく。
- 委員長 内部評価を2段階で行うということだが、こちらとの接点をどうしていくか。
- 事務局 内部評価で評価した結果がそれで良いかということになると思うので、現実的に話し合っていきたい。
- 委員 意識調査はもう決まっているのか。
- 事務局 ずっとこれを指標にしていくので、同じような形で聞いていく。
比較的回答率は高いほうだが、段々回答して下さる方が減っている。
- 委員長 言葉は悪いが、適当にアンケートに答えている人が多い。アンケートだけが一人歩きしているのではないか。
- 事務局 聞きたいことが多いので、どうしても項目が多くなってしまい、回答するのが面倒くさいという人も出てきてしまう。

- 委員 アンケートはどうやって配っているのか。
- 事務局 無作為に抽出して郵送で配っている。
- 委員 基本的にアンケートは嫌い。市民課で待っている人に逆に口頭で聞きながらチェックすると真実の声が聞けるかもしれない。
- 事務局 アンケートの取り方が、地域と年齢で分けて配っている。
- 委員 どの年代の回答率が高いのか。
- 事務局 年配の人が高い。忙しい人ほど答えてもらえない。
- どうしても施策評価というと施策の目指す姿を現すために指標を決めているが、それがあっているかどうか難しい。頼る所がアンケートとか公共的に客観的に出ているデータとかで、それらを拾っていくことになる。取りあえず手段がそれしかないので、それで施策評価を組み立てているが、その辺も合わせて議論してほしい。
- 委員長 刈谷市の計画の新しいところは、指標を出しているところと、共存・協働のまちづくりの考え方で市民は何をするのか、団体・事業者は何をするのか、行政は何をするのかといったそれぞれの役割を示しているところが、行政計画ではなく社会計画といえるところ。施策評価をするときにはこういうところもそれぞれ意識して頂きたい。
- 施策評価については先進事例もみてがんばってください。快適便利な住環境が整備されていると思っている人は7割以上、活気ある魅力があると思う人は4割。活気ある魅力が足りないのであれば何をしたらいいのかと捉えれば、刈谷の課題となる。アンケートは読み方によっては面白い。優先順位をつけるなら、快適便利より活力ある魅力の方にウェイトをかけて施策をした方が良いかもしれませんねということになる。
- 事務局 こちらのほうはもう少し詰めていきたい。
- 委員長 各部署に配って頂く評価シートについても、必要に応じて内容を検討してもらいたい。
- ありがとうございました。

(3) その他

- 事務局 今日議論して頂いた20事業については7月に外部評価を実施させていただく。今年も公開という形をとり、より広く伝えられるようにインターネットの公開放送の導入も検討している。もし差支えなければご了承

解いただきたい。

委員 長 インターネットで中継、公開するということによろしいか。
事務局 対象事業については7月上旬に資料を送付させていただく。

以上。